

「アズマヒキガエル」というカエルを知っていますか？

アズマヒキガエルは人が持ち込んだ、元々北海道にはいなかった国内外来種であり、北海道生物の多様性の保全等に関する条例で、野外に放つことが禁止されている「指定外来種」に指定されています。

- ①オタマジャクシのときから体に毒を持つため天敵が少なく、また産卵数も多いため、石狩川流域や函館市を中心に数が増加しています。
- ②体が大きく、地表性の様々な生物を捕食するため、増加すると地域の生態系が変わるほどの大きな影響があるとの専門家の指摘があります。

これ以上、生息地域を拡大させないためにまずできることは、カエル、オタマジャクシ、卵を人の手で移動させないことです。

4月～5月頃から池や沼地、水路などで卵やオタマジャクシが見られるようになりますので、捕まえても元の場所に戻すなど、その場から移動させないようにお願いします。

(別の場所に放つなどの行為は中止命令を受けることなどがあり、違反をすると30万円以下の罰金を受けることがあります。)



- ①アズマヒキガエルの成体
左がメス、右がオス。どちらも体にイボ状の突起があるのが特徴。
- ②アズマヒキガエルの卵紐
4～5月頃に見られ、細長い紐状の卵を産む。
- ③アズマヒキガエルの幼生（オタマジャクシ）
常に群れて泳いでいるので、写真のような塊で観察される。
在来のオタマジャクシよりも黒く、体のサイズも在来のものより小さい。

<参考>

- ・7月頃、オタマジャクシから小さなカエルに形を変え、陸上生活を始めます。
 - ・成体は水辺ではほとんど見られず、夜行性で山林や草地などで餌を探します。
ただし、産卵のために4～5月頃だけ、池や水たまりに集団で集まります。
 - ・成体は、目の後ろ側にある耳腺から白い毒液を出し、外敵から身を守ります。
- この毒は傷口や粘膜に触れると炎症を起こしたり、誤って口に入った場合、吐き気やめまいなどの症状が現れることがありますので、もし見つけても素手で触らず、触ってしまった場合はよく手を洗ってください。